

## ＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

# ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第82回

クリスマスローズ



キンポウゲ科に属するクリスマスローズで、学名は*Helleborus niger*です。なお本画では*Helleb nigr*と読み取れますですがこの学名は間違います。*Helleborus*は*Hellien* (殺す)と*bora* (食べ物)から、*niger* は黒いを意味します。これはヘレボリンやヘレブリシン等の強心配糖体が含まれるため、誤って食べて死に至る中毒が起こるケースがあり恐れられていたものと思われます。

ヨーロッパ全域、バルカン半島、黒海沿岸、地中海沿岸、また、中国にも自生しており、かなり生育範囲が広い植物と言えます。クリスマスローズは上述の通り強心配糖体が含まれますが、東ヨーロッパでは強心薬としてのみならず利尿剤、駆虫剤として、また腫瘍、水腫、鬱病等に用いられています。また、アユルベーダ医学では消化器疾患や神経性疾患に用いられます。

本画のクリスマスローズは原種と思われますが、現在では育種が進み非常に多くの品種が見られます。本画はウイリアム ウッドビルによる1810年の作です。